

JMA関西便り

発行日：2026年3月 発行元：日本能率協会（JMA）関西事務所



【開催報告】「アートが切り拓く経営の未来」in 京都 115名の経営層が参加、アート思考を深める。今後の取り組みも発表

一般社団法人日本能率協会は、2025年11月14日（金）、ホテルグランヴィア京都にてシンポジウム「アートが切り拓く経営の未来」を開催しました。当シンポジウムは、今年3月に東京で開催した第1弾に続くものです。今回は、前回の参加規模を上回る115名を超える経営層が来場し、アート思考の重要性について議論が交わされました。



シンポジウム
会場の様子



松井孝治
京都市長の挨拶

ビジネスモデルや商品のサイクルが高速化し、変化が激しい現代社会では、直感や感性、独創性に紐づく“アート思考”の重要性が高まっています。経営には「サイエンス（分析）」「クラフト（技術）」「アート（直感）」の3つの要素が不可欠であり、組織の持続的な成長のためには個々の創造性を発揮する力が求められます。アートは、その創造的思考を促し、新たな価値を生み出す重要な戦略資源です。

シンポジウムの冒頭の来賓挨拶では、西脇隆俊京都府知事と松井孝治京都市長より、京都で本シンポジウムが開催される意義が述べられました。京都では10～11月にかけて86を超えるアートイベントが集中開催され、世界のギャラリーも集うなど、国内有数のアート発信地となっており、アートと経営の融合を議論するにふさわしい舞台であるというご挨拶がありました。

パネルディスカッションでは、京都市立芸術大学の小山田徹学長や株式会社堀場製作所の堀場厚会長、各地の芸術大学の学長などを迎え、「経営におけるアート実装の必要性」、「アートを導入した都市空間の新潮流」について様々な意見、視点が示されました。

【シンポジウム概要】

◆パネルディスカッション

「経営におけるアート実装の必要性」、 「アートを導入した都市空間の新潮流」

●パネリスト（敬称略）

京都市立芸術大学 学長 小山田 徹
愛知県立芸術大学 学長 白河 宗利
金沢美術工芸大学 学長 山村 慎哉
武蔵野美術大学 理事長 長澤 忠徳
株式会社堀場製作所 代表取締役会長兼グループCEO 堀場 厚
株式会社観光企画設計社 代表取締役社長 鈴木 裕

●モデレーター（敬称略）

ソフトバンク株式会社 特別顧問 / Kアート株式会社 代表 宮内 謙



パネルディスカッションの様子

＜主な議論ポイント＞

【アートが生む「問い」と「余白」がイノベーションの原点】

(小山田氏)

「芸術は“未来の当たり前”を提示する営みであり、分からなさや違和感の中にこそ創造の種がある」と述べ、アートが社会に新しい視点を投げかける力を強調。

【リーダーが感性を磨く“アート思考”の重要性】

(白河氏)

データ分析(サイエンス)や職人的技(クラフト)だけに頼るのではなく、直感を磨くことで組織の創造力が高まり、イノベーションが生まれると指摘した。

【アートは“場の呼吸を整えるインフラ”】

(山村氏)

企業空間・都市空間にアートを取り入れることで、人の動きや関係性が変わり、組織文化が豊かになると説明。

【固定化した思考のルールを超える教育】

(長澤氏)

美大が“造形言語”を唯一教える場であり、右脳の感性の育成が未来のリーダーに不可欠であると述べた。

【経営そのものもアートである】

(堀場氏)

社是でもある「仕事は“おもしろおかしく”やらなければ創造性は生まれない」と語り、経営の中にアートの視点を取り入れる必要性を示し、企業文化を育てるための活動を紹介。業務改善には「遊び心が必要」と語った。

【都市が持つ文化価値とアートの共鳴】

(鈴木氏)

設計を手がけたホテルの実例から、地域の物語性を生かした空間デザインが、人の体験価値を高め「ウェルビーイング」の効果などを紹介した。

◆事例紹介

①「東急ステイ 日本橋

Artful Moments による効果」

②「一般社団法人日本能率協会

Meets Creativityによる効果」

Kアート株式会社 Director 土屋 純、渡辺 明日香

アートを取り入れた事例として、東急ステイ日本橋では、

地域の物語性や素材を生かしたアート設計が、国内外の多様なゲストの体験価値向上につながった点を紹介。

また、JMA研修室へのアート導入によって“場の体験価値”が向上し、来訪者の集中度や滞在満足度が上がったことなどが紹介されました。



(左) 渡辺 明日香氏 / (右) 土屋 純氏

◆特別講演

「アートで経営を変える

ー感性と戦略をつなぐ挑戦」

Ph.D. of Creative Thinking for Social Innovation

朝山 絵美

登壇した朝山氏は、変化の激しい時代においては過去の経験に基づく“従来型の直感”ではなく、五感で観察し、身体性を伴って世界を捉え直すことで直感をアップデートする必要性を説きました。アート鑑賞における視点の違いや、身体を使ったプロトタイピングが新たな発想につながる具体例が紹介され、参加者からも大きな関心が寄せられました。

● 2026年開催予定の新たなプログラムについて

特別講演の中で朝山氏より、JMAと共同で今後企画している「アートによる創造的リーダーシップ開発プログラム」(次頁にて紹介)が紹介されました。

本講座では、“自分という商品をブランディングする”をテーマに、アート作品の鑑賞と対話、素材を扱う造形ワーク、身体性を伴うフィールドワーク、思考のアンラウン(手放し)、感性を磨く非言語的トレーニングなどを通じて、経営者・管理職が“自らの感覚で判断する力”を養います。



朝山 絵美氏

■ 日本能率協会

富浦 渉(事業推進本部 本部長)のコメント

我々が今回のシンポジウム「アートが切り拓く経営の未来」を企画した背景には、急速に変化するビジネス環境と、その中での企業経営の在り方にあります。

「アートが切り拓く経営の未来」とは、一人ひとりが持つ独自の視点や創造力を最大限に活用し、多様性とイノベーションが調和する未来です。アート思考を取り入れることで、企業の経営者や社員が既成概念に捉われず、自分自身の感覚や美意識に基づいて新しい価値を創造できるようになります。

このような未来では、ビジネス環境の変化に柔軟に対応し、持続的に成長する企業文化が根付いていくはずです。

アートの力を通じて、人間的な感情や感性を大切にできる企業風土が醸成され、働く人々がより豊かで意義あるキャリアを築くことができると信じています。

■ 開催概要

- 名称：アートが切り拓く経営の未来
- 日時：2025年11月14日(金) 14:00~16:55
- 会場：ホテルグランヴィア京都 3階「源氏の間」
(京都市下京区烏丸通塩小路下ル)
- 来場者：経営者(役員層) 約115名
- 主催：一般社団法人日本能率協会
- 特別協力：一般社団法人日本能率協会 理事 宮内 謙
(ソフトバンク株式会社 特別顧問 /
Kアート株式会社 代表)
- 協力
京都府、京都市、京都商工会議所、京都新聞社、
武蔵野美術大学、京都市立芸術大学、
金沢美術工芸大学、愛知県立芸術大学 ほか

- YouTubeで本講演の動画がご覧になれます。



<https://www.youtube.com/watch?v=38mxHUFtCpY&t=2224s>

参加者募集のご案内

これからのビジネスリーダーに求められる
「直観力・感性・美意識」を磨く

アートによる 創造的リーダーシップ 開発プログラム

最新情報はこちら



<https://cla.jma.or.jp/>

会期：2026年7月~12月(全8回)

会場：日本能率協会(東京都港区) 他

● CLAとは

データのない領域で
意思決定を行う指針となる
自身の心が震える感覚をみつける

かつて世界を席卷し日本を支えた力は、緻密な
分析と計画という「正解を導く力」でした。

しかし、予測不能な現代において、過去のデータ
の延長線上に答えはありません。

いま次世代のリーダーには、その論理に加え、自
らの内面から湧き上がる「想い」や「動機」を起
点とした「創造性」が求められています。

本プログラム(CLA)は、自己の内面と向き合い
表出する「アートの力」を通じ、自分という答え
のない問いと徹底的に対峙することで、「自らの
意志と感性で、創造的な新しい価値を創出でき
るリーダー」を育成します。

※CLAでは、アートとは絵画など単なる作品だけで
なく、内面の探求と表出などのプロセスを指す。

推奨

1社2名のペア参加
(例：経営・マネジメント層+次世代リーダー層)

対象

- イノベーション創出に課題を感じている経営者・事業責任者
- 新しいリーダーシップを模索するマネージャー
- 次世代の経営を担うリーダー候補
- 事業開発や商品企画、研究開発など新価値創造を担う方

主任講師

朝山 絵美 氏 工学修士 (Master of Engineering)
造形構想学修士・
博士 (Ph.D. of Creative Thinking for Social Innovation)

目的

「アートスキル実践」と「リーダーとして自分自身との対峙」を通じて、
「変革や新しい価値創造を推進できるリーダー」を育成する

ねらい

- 1) アートスキルの実践を通じて、これからのビジネスリーダーに
求められる「直観力・感性や美意識」を磨く
- 2) イノベーションに最も重要とされる「自分自身の内面にある
内発的動機や想い」に迫り対峙する
- 3) 抽象的なモノゴトを具現化する力、表出する力を習得する

(次頁につづく)

これからのビジネスリーダーに求められる「直観力・感性・美意識」を磨く アートによる創造的リーダーシップ 開発プログラム

最新情報は
こちら→



<https://cla.jma.or.jp/>

会期：2026年7月～12月（全8回）

会場：日本能率協会（東京都港区）他

● 2026年 開催日

- <第1回> 7月17日（金） **Phase 1** 言葉と造形で「自分を再定義する」
- <第2回> 8月 7日（金）
- <第3回> 8月28日（金） **Phase 2** 観察と造形で「美的判断を鍛える」
- <第4回> 9月18日（金）
- <第5回> 10月 9日（金） **Phase 3** 論理と感性で、「伝わる構造をつくる」
- <第6回> 10月23日（金）
- <第7回> 11月13日（金） **Phase 4** あらゆる表現を統合し、「自分を社会に提示する」
- <第8回> 12月 2日（水） 創造的対話

詳細、お申込みは







セミナーID

152941

検索

特別講演が順次決定しています！

7月17日（金） 15:00～16:00	「なぜ今、アートが必要なのか？」 （仮）	 学校法人武蔵野美術大学 理事長 長澤 忠徳 氏
8月 7日（金） 15:00～16:00 & 12月 2日（水）	「アートの力とイノベーション」 （仮） ※最終回12月2日（水）は終日ご登壇。受講者との創造的対話を行います！	 愛知県立芸術大学 学長 白河 宗利 氏
9月18日（金） 10:00～11:00	「行動と実践を戦略に接続する」 （仮）	 慶應義塾大学 総合政策学部 教授 琴坂 将広 氏
10月 9日（金） 11:00～12:00	「アートと脳科学の関係 ～創造的な思考になるために～」 （仮）	 お茶の水女子大学 基幹研究院自然科学系 助教（理学部生物学科） 毛内 拓 氏

※プログラム内容や講演テーマ・内容・時間等変更となる場合がございますので、予めご了承ください。

講師派遣型研修のご案内 ～ ご要望に合わせて講師を派遣し研修を実施します ～

「人づくり」「組織づくり」「仕組みづくり」をトータルサポート

アートを取り入れた研修も含め、お気軽にご相談ください

～ こんな課題、感じていませんか？ ～

- ✓ 社員教育を実施したいが、業務が多岐にわたって時間が無く、思うように進められない…
- ✓ 各部署と連携して教育・研修体系を構築したいが、なかなか調整できない…
- ✓ どのような支援が自社に適していて効果的なのか、比較検討が難しい… など

事務局通信

JMAでは、アートを取り入れた研修の提供に取り組んでおります。
本紙で紹介しているコースをはじめ、新たな企画を進めてまいりますので、是非ご注目ください。

お問合せ先

一般社団法人 日本能率協会 経営・人材革新センター 関西事務所
〒530-0001 大阪市北区梅田1-8-17 大阪第一生命ビルディング6階
TEL：06-4797-2050 E-mail：jma-kansai@jma.or.jp
URL：https://www.jma.or.jp/kansai